富山大学極東地域研究センター
CFES News Letter
Center for Far Eastern Studies, University of Toyama
2016.09 発行
Vol.23

I. Living in Toyama

バーミンガム大学の地方行政研究所と超多様化社会研究所で博士研究員としてこれまで研究を進めるなかで、夏に研究プロジェクトを富山で実施し、日本が地方レベルでグローバルな人の移動の諸課題にどのように取り組んでいるかを探ろうと思い立ちました。私の研究は、新たなアクターが担う役割から生み出される現代の移民問題を国家がいかに位置づけているのかを、異なる意思決定文化をもつ様々な国で比較しながら考察しようというものです。富山大学極東地域研究センターの外国人客員研究員として、2016 年 6 月 22 日から 8 月 22 日まで研究する機会を得ることができました。

私のこの研究プロジェクトは、日本学術振興会の支援を受けていますが、地方と国レベルでの移民政策の決定における政策起業活動（policy entrepreneurial activity）の役割を見いだすことを目的としています。地方の様々なコミュニティは、日本に住む外国人がうまく日本社会に統合できるようにするために様々なカウンセリングやサービスを提供しています。この研究プロジェクトでは、そうした地方の様々なコミュニティが直面する諸課題に取り組みたいと考えています。多層的な地方の移民問題を探るべく、これまで特に富山市民国際交流協会や公益財団法人新潟県国際交流協会を訪問し、調査を行ってきました。

富山市での研究環境は、日本海に面し北アルプスに囲まれていて、本当にすばらしいと思います。そうした研究環境のみならず、富山にはすばらしいものがいっぱいあります。富山湾は美味しいお魚で有名です。第二次世界大戦の富山空襲により市内は甚大な被害を受けたにもかかわらず、魅力に溢れています。私のお勧めは、すばらしいパノラマ風景が広がる呉羽ハイツの露天風呂と富山市民俗民芸村にある茶室円山庵です。自転車に乗って街を走れば、素敵なカフェや、富岩運河環水公園や松川べりのように、のんびりできる場所がいっぱいあることに気がつきます。富山大学のキャンパスはとても活き活きしていて、美しい女子大生さんがキャンパスで歌を歌っていたりします。日本での生活で時には困ることもありましたが、地元の人たちはとても親切で、しかも異なる新しい文化を学ぼうとする気持ちがとても強いように思いました。

写真１：ジモン研究員

最後に、堀江教授には富山での研究の間、支援鞭撻を頂いたことに深く感謝申し上げます。絶えずサポートしていただいたおかげで、富山でもしっかり研究ができました。また、極東地域研究センターのみなさんにも温かく受け入れて頂き、感謝申し上げます。このような機会を得ることができたことをうれしく思います。きっとまた日本を訪れたいと思います。

ジモン・パルツニウスキ（バーミンガム大学/極東地域研究センター外国人客員研究員、翻訳：堀江典生）

II. NIHU 研究会報告・今後の研究会開催予定

極東地域研究センターでは、7 月 27 日（水）に、滋賀大学経済学部・大村啓喬准教授と京都大学経済学部・神事直人教授をお招きし、本年度第 3 回の研究会を開催しました。この研究会は、人間文化研究機構（NIHU）および国内の 4 つの大学・研究機関と共同で、本年度から極東地域研究センターでスタートした北東アジアをめぐる地域研究プロジェクト「北東アジアにおける地域構造の変容：越境から考察する共生への道」の一環として、定期的に開催しているものです。

7 月 27 日の第 3 回研究会では、天然資源をキーワードとしました。当日は、滋賀大学・大村准教授から“Natural Resources, Insurgency, and Economic Development” と題して、天然資源・経済発展・紛争を巡る研究動向と、ご自身の直近の研究についてのご報告がありました。大村准教授からは、内戦研究の伝統的な論点である「強欲(greed)」仮説・「不平・不満(grievance)」仮説を踏まえつつ、経済発展の度合い（貧しさ・国家の統治能力の低さ）や天然資源と紛争の関係を巡る実証研究の動向と、先行研究の課題を踏まえた実証研究についてご報告いただきました。

また、京都大学・神事教授からは、「国際貿易と天然資源の利用に関する研究」と題して、再生可能天然資源と国際貿易との関係を巡る理論研究・実証研究についてご報告がありました。神事教授のご報告では、同分野で標準的なブランダー=テイラー・モデルを用いた理論研究の概説だけでなく、それを基盤とした実証研究の動向・課題も論じられました。上述の通り、当センターでは北東アジアにおける国際分業・天然資源に着目した研究を推進していることもあり、天然資源という共通の切り口からご報告いただいた今回の研究会は、今後プロジェクトを推進していく上でも貴重な財産となるものでした。

なお、極東地域研究センターでは、今後も継続的な研究会の開催を予定しています。次回は、筑波大学生物資源学類・立花敏准教授をお招きし、10 月 26 日（水）に本年度第 4 回の研究会を開催する予定です。センター以外のご所属の教員・学生の皆様のご出席も歓迎致します。奮ってご参加ください。詳細は、V. にて紹介しているウェブサイトをご覧ください。

（文責　伊藤　岳）

III. NAAN 参加報告

8 月 23-25 日の日程で韓国の江原大学にて第 14 回の Northeast Asian Academic Network (NAAN)が開催されました。NAAN は、中国の中南林業科技大学と富山大学、江原大学が持ち回りで開催している国際学術会議です。今回は経済学部から中村和之学部長をはじめ５名、極東地域研究センターから山本が参加しました。

写真 2：第 14 回 NAAN 集合写真

個別の報告では、富山大学経済学部の松山准教授による複数指標による日本の貧困の分析で活発な意見交換が行われました。大変シンプルなモデルでありながら、様々な示唆を持つモデルをベースとした報告で、わかりやすく説得力がありました。まだ未完成とのことでしたが、今後の仕上がりに大きな期待を抱いています。

私自身が NAAN として江原大学を訪問するのは２度目で、富山大学でも何度かホスト側として関わってきました。今回は韓国側主催者を含めて若手を中心とした新顔が多く、非常にざっくばらんとした会合となり、実りの多いものになったのではないかと感じています。国際会議を開催すると、格式を重んじすぎて(これは東アジア地域で特に強いのかもしれませんが)、ややもすると自由な意見交換をしにくくするような雰囲気となってしまうことがあります。主催者側も誠意をもって作り上げているわけですが、結果として逆効果になってしまうということがあるわけです。今回の会合については、そのような環境ではなく、自由で活力のある意見交換がなされたのではないかと感じました。

写真 3：NAAN での議論

そのような良い雰囲気の中で開催できた背景には、韓国サイドの主催者の人柄なども大きく影響しているかもしれません。２年後にまた富山大学にて開催となりますが、その際には今回の学んだことを活かせるようにしていきたいと思います。　　（文責　山本雅資）

IV. 地域研究四方山話

2015 年の国勢調査で日本は 4 人に 1 人が 65 歳以上年齢になり、少子高齢化が増々進展していることが明らかになったが、中国の場合は一人っ子政策という人為的な要因により、少子化が加速する一方、一人っ子政策を始める前のベビーブーマー世代があと 10 年もすると続々と高齢者になることから、事態は一層深刻である。既報（No.19）のように中国は徐々に一人っ子政策を緩和してきたが、人口リバウンドは起きることはなかった。都市においては教育費など子育てに費用がかかることから二人目を望まない傾向も強い。このため 2016 年からはいよいよ二人っ子政策を容認した。ただしこれはあくまで「二人までは可」ということで無制限の緩和ではない。

一方で「失独家庭」、即ち一人っ子を亡くした家庭の問題も起こっている。中国、とくに農村では社会保障が未整備であるため老後は子供、とくに男児に面倒を見てもらわざるを得ない。その子供を亡くしたならば、老後の面倒をみてくれる人がいなくなる。中国版「下流老人」になりかねない。

「未富先老」(豊かになる前に高齢化社会になる)の中国では、養老というかつてない問題が起こっているのである。一人っ子は小皇帝といわれ「6 つのポケットを持つ（小遣いを両親および父母双方の祖父母が与えてくれる）と言われていたが、今後は一人の若者が 6 人の老人の面倒を見なければならない社会を迎えることになる。

（文責　今村　弘子）

V. 人間文化研究機構 地域研究プロジェクト・富山大学拠点ウェブサイト公開のお知らせ

極東地域研究センターでは、2016 年度より人間文化研究機構および我が国における北東アジア地域研究をリードする国内の 4 つの大学・研究機関と共同で、ネットワーク型基幹研究プロジェクト「北東アジアにおける地域構造の変容：越境から考察する共生への道」と題した研究プロジェクトを推進しています。

これに伴い、センター全体ウェブサイトとは別に、プロジェクト用ウェブサイトを公開しました。

http://cfes.eco.u-toyama.ac.jp/nihu-project-cfes-toyama

からアクセスできます。このプロジェクト用ウェブサイトでは、主にプロジェクトに関連する研究会・セミナー開催情報や、ワーキングペーパー等の研究成果を随時公開していく予定です。是非、一度ご訪問ください。

（文責　伊藤　岳）

連絡先住所：〒930-8555　富山県富山市五福３１９０　富山大学 研究推進機構 極東地域研究センター
電話：076（445）6510　ファックス：076（445）6520
ホームページ <http://www3.u-toyama.ac.jp/cfes/index.html>